



イノシシ捕獲技術 プログラム

Ver.2



かがやくけん、かがわけん。

香川県

プログラムの目的

本プログラムは、わなによる捕獲技術の向上を図り、イノシシの生息数の低減や市街地への出没を予防することを目的に作成しました。

捕獲は、防護柵の設置や環境管理と併せて、獣害対策の重要なメニューのひとつです。

注意事項

- イノシシの捕獲には許可等が必要です。
このプログラムは、法令に基づいた捕獲許可等を受けた方を対象に作成しています。法令やマナーを守って、安全に捕獲を行ってください。
- わなの特徴をよく知り、環境や状況にあったわなを、効果的に配置しましょう。

目次

■ プログラムの目的・注意事項	1p
■ 安全管理と捕獲のマナー	2p
■ はこわな、囲いわなの捕獲フロー	3p
■ くくりわなの捕獲フロー	4p
■ プログラムの実践	
1. わなの種類	5-6p
2. はこわな、囲いわなの捕獲手順	7-14p
3. くくりわなの捕獲手順	15-21p
■ 資料	
イノシシのフィールドサイン	22-24p
今回のプログラムで使用したくくりわな	25p

安全管理と捕獲のマナー

- **捕獲時の対応は迅速に！**

捕獲したイノシシを長時間放置すると、事故の発生や捕獲効率の低下につながります。

- **わなのメンテナンスはこまめに！**

切れかかったワイヤーや、接合部が傷んだわなを使い続けると、深刻な事故につながるおそれがあります。

- **仕掛けのセットは最短で！（はこ・囲いわな）**

仕掛けをセットしたまま長時間放置すると、錯誤捕獲や誤作動が発生するリスクが高まります。扉のロックは、十分に餌づいてから解除しましょう。

- **わなの周辺には注意喚起の看板を！**

出合いがしらの事故を防ぐため、わなの周辺には目立つように注意喚起の看板を掲示することが大切です。

- **エサのやりすぎに注意！**

過剰なエサやりは、余ったエサが腐敗して悪臭や害虫の発生などによるトラブルの原因となります。

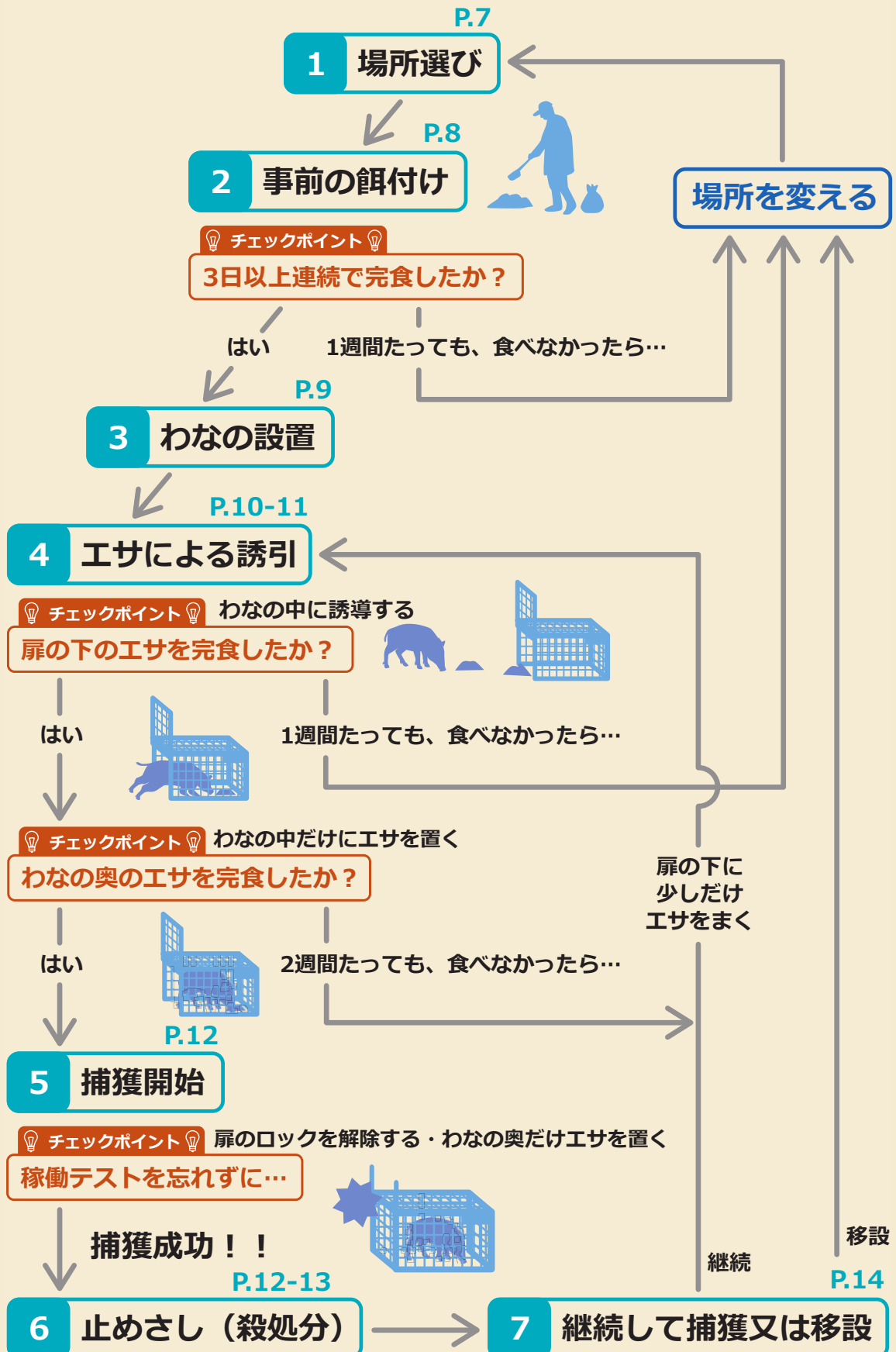
- **餌付けたイノシシは確実に捕る！**

捕獲せずに放置しておくと、周辺の農業被害を助長するおそれがあります。

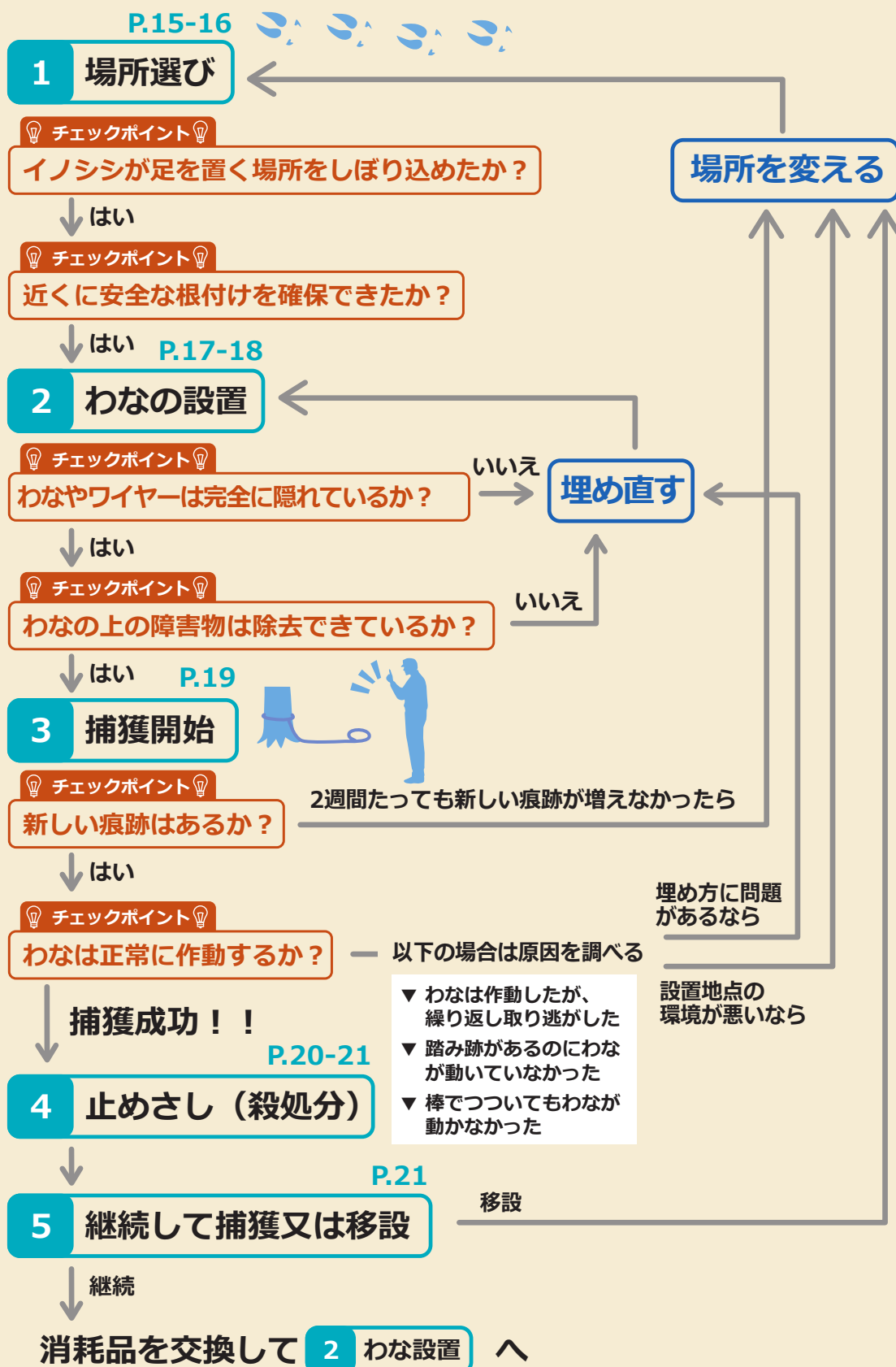
- **ゴミは持ち帰ること！**

捕獲に使ったワイヤーや針金、テープなどのゴミは、すべて拾い集め、持ち帰りましょう。

はこわな、困いわなの捕獲フロー



くくりわなの捕獲フロー


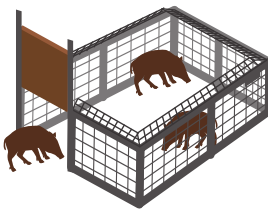
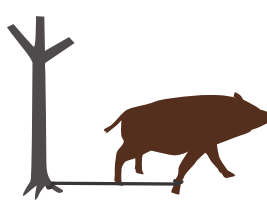


1. わなの種類

イノシシを捕獲するわなには、(1) はこわな、(2) 囲いわな、(3) くくりわながあります。

設置する場所の広さや管理の都合、捕獲後の殺処分などを考慮に入れて、どの種類のわなをどの場所を使用するか決めましょう。

● 各わなの特徴

	(1) はこわな	(2) 囲いわな	(3) くくりわな
イメージ図			
期待できる成獣の捕獲数	1頭	1～5頭程度	1頭
購入・製作費用	5～10万円程度	25～30万円程度 (4m×4mの場合)	5千円～3万円程度
運搬・設置	<p>設置や移動には人手や重機が必要 (組み立て式わなの場合、少人数でも作業可能)</p> <p>わなを安定して設置できる平坦な土地が必要</p>		<p>小型、軽量で一人でも設置や移動が可能</p> <p>平地が少なく、車でのアクセスが困難な場所にも設置可能</p>

(1) はこわな (例)



設置環境



捕獲状況

(2) 囲いわな (例)



設置環境

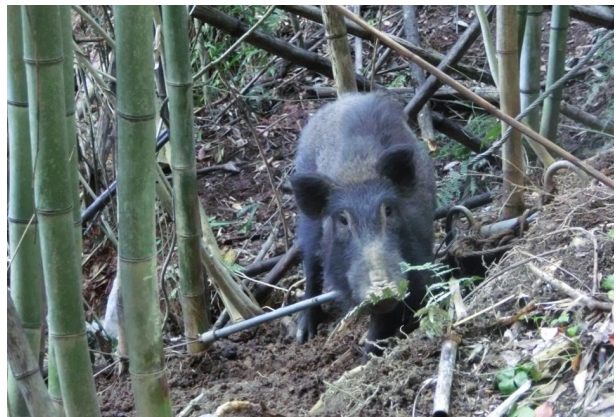


捕獲状況

(3) くくりわな (例)



設置環境



捕獲状況

※ 実際は、わなは見えなように埋めます。

2. はこわな、困いわなの捕獲手順

1. 場所選び

目標 ● イノシシが頻繁に出没している場所を見つけること

① 最新の出没状況を把握する。

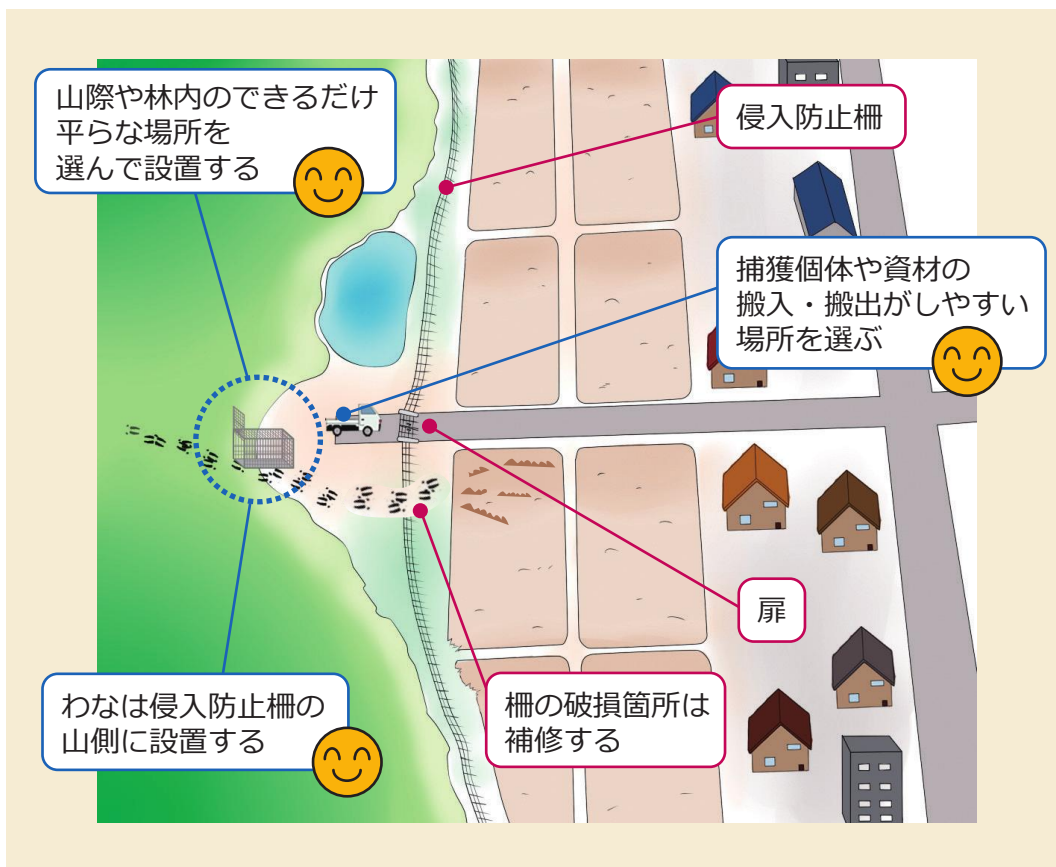
足跡、糞、泥こすりの跡、食べ痕、被害・目撃情報などをもとに場所を選ぶ。
※ 足跡、糞、泥こすりの跡などのフィールドサインは、資料p.22～p.24を参照

② わなの設置場所を決める。

以下の条件を満たす場所を選びましょう。

車でのアクセスが容易、人家や交通量の多い道路から十分に離れている、十分な広さの平地がある、人目につきにくい、山際や見通しが良い林内、土地所有者の許可を得られるなど。

● わなを設置する際の留意点



2. 事前の餌付け

目標

- その場所でイノシシを捕獲できるか、確かめること
- 捕まえたいイノシシのエサの好みを確認すること
- イノシシにエサ場の位置を覚えさせること



- ① わなの設置前に餌付けを始める。
- ② 何種類かのエサを少しずつ小さな山にしてまく。



エサの好みは、地域や季節によって異なります。
まずは、誘引するイノシシのエサの好みを調べましょう。

- ③ 毎日、食べられたエサの量や足跡を確認し、新鮮なエサを追加する。
- ④ 3日以上連続してエサが完食されるまで継続する。

1週間たってもエサが完食されない場合は、エサの種類や餌付け場所の変更を検討しましょう。

● 香川県内でよく使われているエサの種類

- ・米ぬか
- ・くず米、古米
- ・配合飼料（乾燥トウモロコシを含むもの）
- ・イモ類
- ・マメ類
- ・その他の野菜・果実類
（カボチャ、カキ、スイカ、リンゴ、ミカンなど）
- ・酒かす



イノシシによる米ぬかの食べ痕

イノシシやシカが食べると、なめとったようになります。

【エサ選定のポイント】

- 誘引力が強いもの
- 安く（無料で）手に入るもの
- 扱いやすいもの（腐りにくい、入手しやすい、保管しやすい）

2. はこわな、囲いわなの捕獲手順

3. わなの設置



目標 ● イノシシが入りやすいようにわなを置くこと

- ① 毎日、エサが完食されるようになったら、わなを設置する。
- ② イノシシの目線に立ち、入りやすいと思えるような位置や向きでわなを設置する。

※ わなは、けもの道^{みち}を塞がないように設置しましょう。

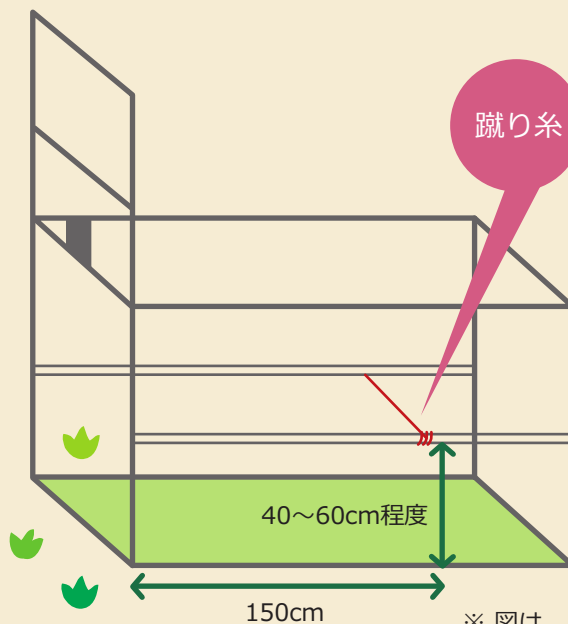
イノシシが完全に餌付く前にわなが閉まらないように、扉を固定します。

- ③ センサーや蹴り糸をセットする。

繁殖力の強い大型の個体を捕獲するため、蹴り糸は、地面から40～60cmの高さで、わなの入り口から4分の3程度の位置に設定します。

- ④ 餌付け期間中は、蹴り糸を仕掛けにつながらず、イノシシが蹴り糸に触れたら、緩んで外れるように軽く結んでおく。

● 蹴り糸の奥行きと高さの設定について



蹴り糸を40cm以上に設定することで、ウリ坊やタヌキなどの中型動物の進入でわなが作動するのを防ぐことができます。

ウリ坊だけ捕獲していると、繁殖力の強い大型の個体が警戒して、捕獲しにくくなることがあります。

※ 図は、奥行き2mのはこわなでの設置例です。

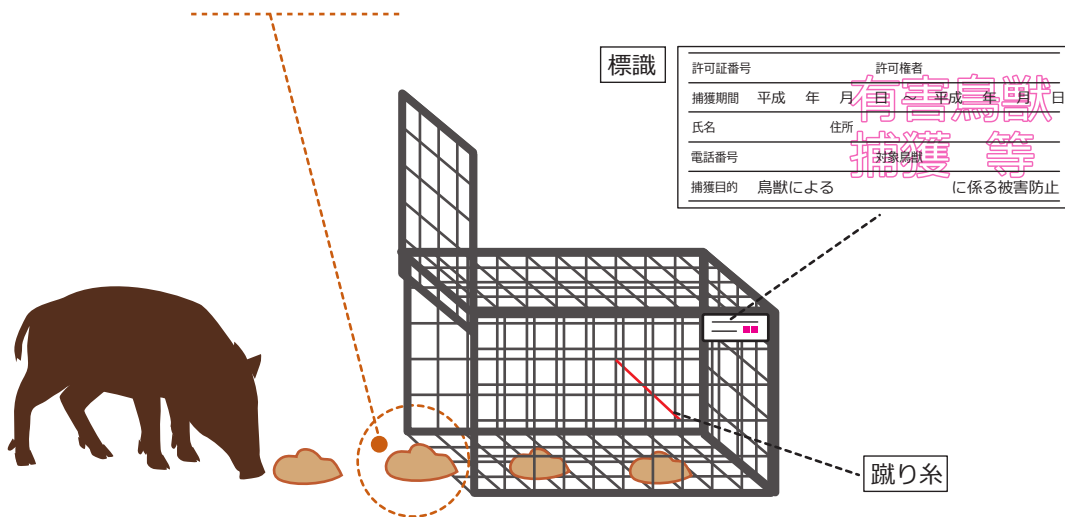
4. エサによる誘引

目標 ● イノシシにわなをエサ場と認識させること



■ イノシシをわなに近づける

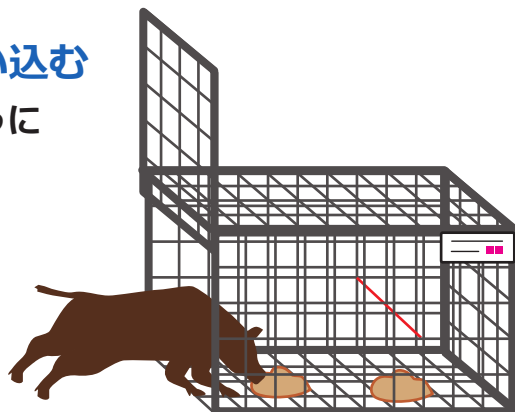
- ① 少し離れたけもの道から、徐々にわなへと誘導するようにエサをまく。
- ② 毎日、食べられたエサの量や足跡を確認し、新鮮なエサを追加する。
- ③ 完食されるようになったところには、エサを置かないようにする。
- ④ 最後には**扉の下のエサ**だけを残し、確実にイノシシをおびき寄せる。



毎日、エサを追加することで、イノシシは、わなを魅力的なエサ場と認識するようになります。足跡を観察し、イノシシの寄り付き具合を想像することで、捕獲技術は向上します。

■ イノシシをわなの中に誘い込む

- ⑤ 扉の下のエサが完食されるようになったら、わなに入らないとエサが食べられないように、**わなの中だけにエサをまく。**

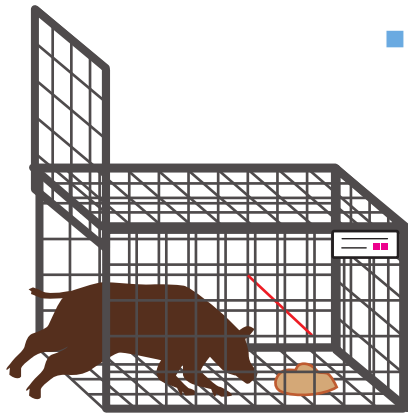


2. はこわな、囲いわなの捕獲手順

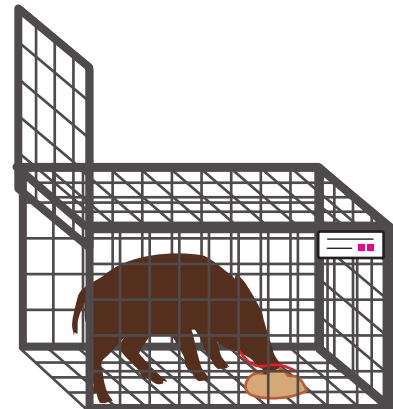
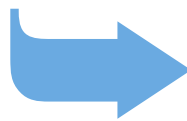
■ イノシシをわなの奥まで誘い込む

- ⑥ 毎日、わなの中のエサを食べるようになったら、わなの奥だけにエサをまく。
- ⑦ わなの奥のエサが毎日完食されるようになるまで、餌付けを続ける。

わなに入るようになったら、手前にエサをまくのはやめましょう。わなに対する警戒心が戻ってしまいます。



- 足跡を見て、大型の個体がわなに入るようになったことを確認したら、もう一息！警戒心を解く餌付けを続けて、一気に奥まで誘い込みましょう。



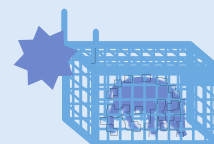
- わなをエサ場と認識すると、毎日、奥のエサまで完食するようになります。毎日、蹴り糸が緩むようになったら準備完了です。

群れで行動するイノシシを誘引する場合、警戒心の低いウリ坊は、すぐにわなに入ってエサを食べるようになりますが、成獣がわなに入るには時間がかかります。じっくりと餌付けてから捕獲を実行することで、群れごと捕獲できる可能性が高くなります。

できるだけ多くのイノシシにわなをエサ場と認識させることで、同じ場所で続けて捕獲できる可能性が高くなります。



5. 捕獲開始



目標 ● 餌付けたイノシシを確実に捕獲すること

- ① 扉の固定を解除し、スムーズに扉が落ちることを確認する。
※ サビなどで動きが悪い時は、潤滑油を塗布してもかまいません。
- ② イノシシの進入に合わせて、正常にわなが作動するか、各部の稼働状況を確認する。
※ 蹴り糸の高さや感度を確認する。
- ③ 蹴り糸より奥だけにエサを追加して、捕獲を開始する。

6. 止めさし（殺処分）



目標 ● 安全に作業を行うこと

- ① 捕獲後は、できるだけ早く止めさしを行う。
- ② 安全かつ確実に止めさしを行うために、まずはイノシシをしっかりと保定する。

鼻くくりでイノシシの鼻を保定する。

はこわなの隙間からワイヤーを入れ、イノシシの鼻をくくります。

はこわなの上の方からワイヤーを入れることで、あごや前足が浮き、止めさしがしやすくなります。



棒を挿し込んでイノシシの動きを封じる。

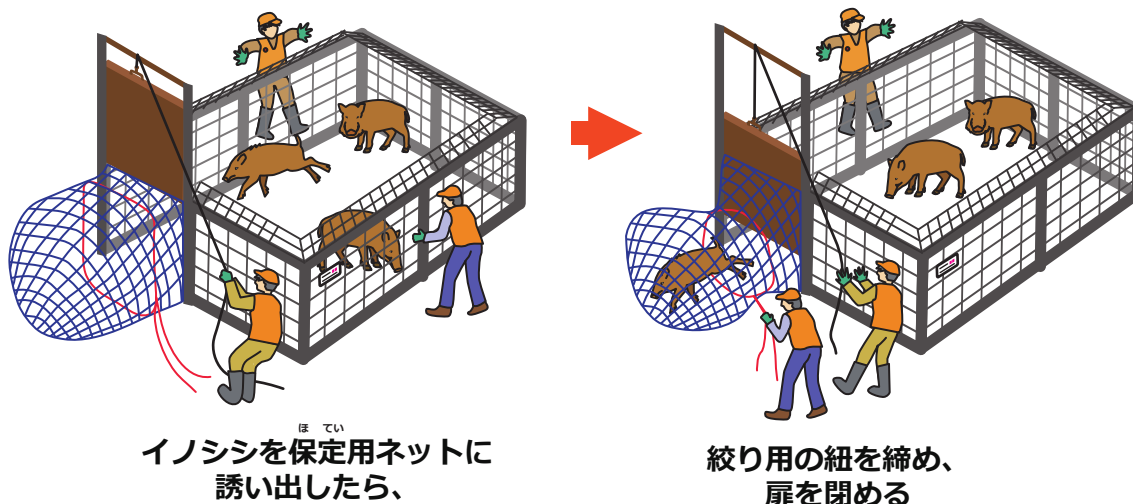
はこわなに竹や角材などを挿ししていくことで、少しずつ空間を狭くして、イノシシを動けなくしていきます。



2. はこわな、囲いわなの捕獲手順

保定用ネットや小型の檻に誘い出して保定する。

大型の囲いわなや、よく動き回る小柄なイノシシを捕獲した場合に有効な保定方法です。

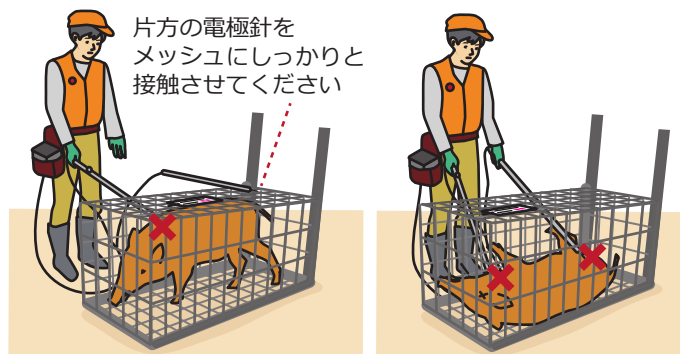


③ 作業者の安全を確保できたら、止めさしを行う。

狩猟用刃物で止めさしをする。



簡易電殺器で止めさしをする。



※ 保定と止めさしの詳しい方法については、『イノシシ保定技術プログラム』を参照

④ 止めさし後の死体の処理は、決められた方法で行う。

※ 止めさし・捕獲個体の処理は、関係法令及び有害鳥獣捕獲許可の内容と許可条件等に従って適切に行いましょう。

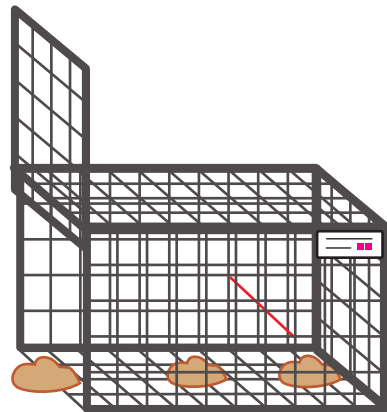
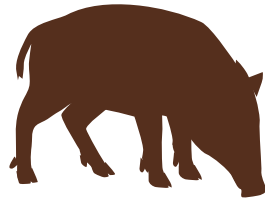
7. 継続して捕獲又は移設



目標 ● 効率よく捕獲を続けること

① 周囲に捕獲可能なイノシシが残っていないか確認する。

- 捕獲後は、再び扉の下とわなの中に少量ずつエサをまき、他のイノシシが誘引できないか確認します。



② エサの食べ方をみて、継続して捕獲をするか、わなを移動させるか決める。

- 扉の下のエサが完食されるようになったら

4. エサによる誘引 の⑤ (p.10) へ

- 3日間たっても扉の下のエサが食べられなかったら

1. 場所選び (p.7) へ

3. くくりわなの捕獲手順



1. 場所選び

目標

- イノシシが確実に足を置く場所を見つけること
- イノシシを安全に捕獲できる場所を見つけること

- ① **イノシシの新しいフィールドサイン（足跡、糞、泥こすりの跡、食べ痕など）を見つける。**
※ イノシシのフィールドサインの特徴は、資料p.22～p.24を参照。
- ② **イノシシが頻繁に利用しているけもの道を探す。**
- ③ **わなの設置条件に合った場所を探す。**

● くくりわなの設置場所の選び方

<p>適</p> 	<p>次の条件に合った場所を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">● イノシシが頻繁に利用していて、くっきりと目立つけもの道がある● けもの道の幅が細くなっていて、足を置く位置が絞しやすい● けもの道の傾斜が緩くなっている● ワイヤーの届く範囲にしっかりした根付けがとれる● 土が乾いており穴を掘りやすく、環境を復元しやすい● 人があまり立ち入らない● 離れた安全な場所から、イノシシやワイヤー、根付の状態などを確認できる（見通しが良い）
<p>不適</p> 	<p>次のような場所での設置は避けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">● イノシシがエサを探して土を掘り起こしている● 水はけが悪い● 砂利や木の根などの障害物が多い● 泥すり痕のある木の真下● けもの道の幅が広く、わなを置く位置を絞りづらい● 急な斜面● 人が入りやすい

くくりわな設置場所の選び方

① 近くに丈夫な根付けがとれること

- ▼ イノシシが暴れても折れない、生きている木を選びましょう。
- ▼ 根付けは斜面の下側にとりましょう。捕獲したイノシシにけもの道を崩されにくくなります。



② けもの道がくっきりしている

- ▼ イノシシが頻繁に利用するので、捕獲できる可能性が高くなります。

③ けもの道の幅が細い

- ▼ わなを置く場所を絞りやすくなります。

④ 傾斜が緩い

- ▼ 足場を確保しやすく、安全に作業できます。

⑤ 複数のけもの道が合流している

- ▼ イノシシの捕獲効率が高くなります。



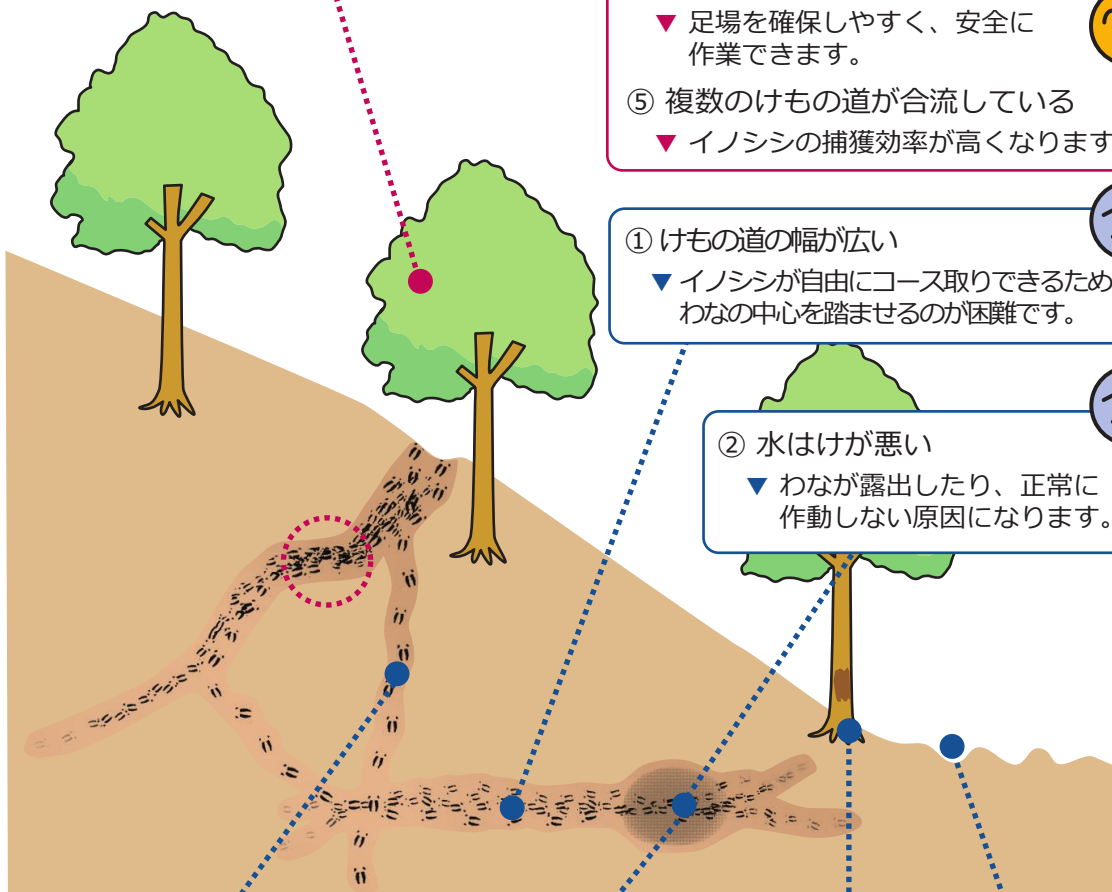
① けもの道の幅が広い

- ▼ イノシシが自由にコース取りできるため、わなの中心を踏ませるのが困難です。



② 水はけが悪い

- ▼ わなが露出したり、正常に作動しない原因になります。



⑥ 急傾斜地である

- ▼ けもの道が崩れやすく、わなが露出したり、土砂で埋もれやすくなります。



③ イノシシの泥すり痕の真下

- ▼ 足を置く場所が安定せず、誤作動することが多くなります。



⑤ 石や木の根が多い

- ▼ 穴を掘りにくかったり、正常に作動しない原因になります。



④ イノシシの工サ場

- ▼ わなが掘り起こされたり、誤作動することが多くなります。



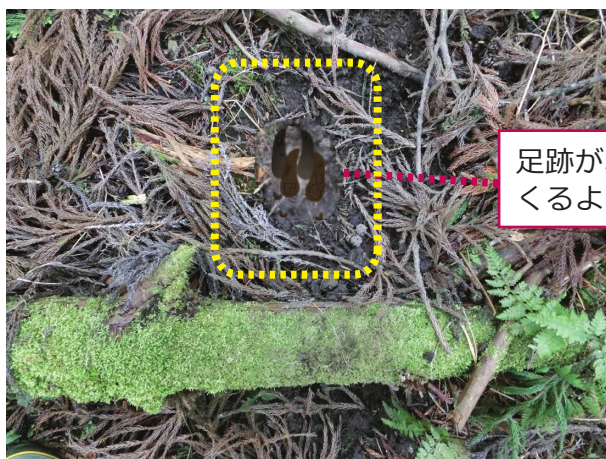
3. くくりわなの捕獲手順

2. わなの設置

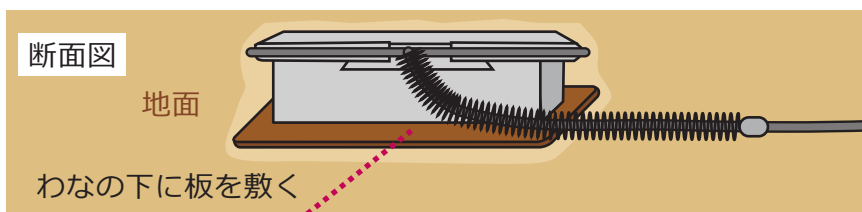
目標 ● イノシシに気づかれないようにわなを設置すること

■ くくりわなの設置手順（踏み板式くくりわなの例）

- ① 足跡がわなの中心にくるように、わなの設置位置を決める。
- ② けもの道と平行に、わながちょうど隠れるだけの穴を掘る。



足跡がわなの中心にくるように配置します。



断面図

地面

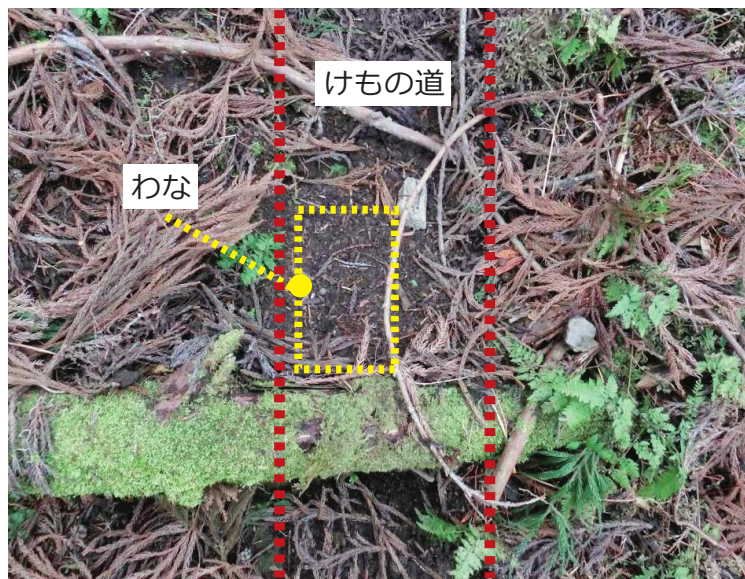
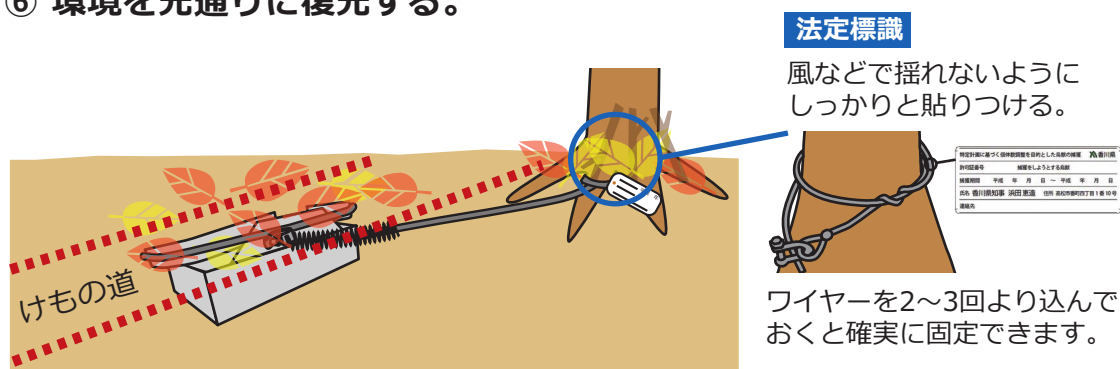
わなの下に板を敷く

板とわな本体の間に石や土、枝などが入らないようにします。

- ▼ 掘る穴の深さは、上に薄く土をかけた時に地面と同じ高さになるくらいが目安です。
- ▼ 穴を掘る際は、できるだけ周辺の環境を荒らさないように留意しましょう。

※ このプログラムでは、踏み板式くくりわな（資料p.25参照）での設置手順を紹介しています。わなの設置方法や留意点は製品ごとに異なるため、使用する製品のマニュアルに従ってください。

- ③ 乾いた土や枯れた落ち葉でわなを完全に覆い隠す。
※ 広葉樹（どんぐりの木など）の葉は、ワイヤーと足の間に挟まり、逃げられやすくなるため、覆いには適していません。
- ④ バネやワイヤーなども見えないように埋める。
! イノシシにしっかり体重をかけさせるため、わなの表面の土を前後の地面と同じ程度に固めておくことが重要です。
- ⑤ シャックルを利用して、ワイヤーの根元を根付け木の根や幹に固定する。
- ⑥ 環境を元通りに復元する。



できるだけ自然な状態に戻す

- ▼ わなの覆いにバネの稼働を妨げるようなものは使用しない。
※ 枝、湿った土、長い丈の草、小石などは取り除きます。落ち葉のかけすぎにも注意しましょう。
- ▼ 根付けに使う木や根は、捕獲したイノシシが暴れても折れない、丈夫なものを選ぶ。
※ 枯れた木や丸太、鉄筋杭などに根付けをとるのはやめましょう。
- ▼ イノシシは障害物を避けて歩く習性があるため、木の枝や石を利用すると足を置く場所を誘導できます。

3. くくりわなの捕獲手順

3. 捕獲開始



目標 ● 常に捕獲できる状態を保つこと

- ① 1日1回見回りをする。
- ② わなの状態やイノシシの足跡、足の運び方などを確認する。
- ③ わなやワイヤーが露出していたら必ず埋め直す。
- ④ 誤作動したわなは放置せず、すぐに再設置するか撤去する。

足跡のつき方を観察し、イノシシの行動を知ることで、捕獲技術は向上します。

● わな移設のタイミング

次のような状況になった場合は、わなの移設を検討しましょう。

- ▼ わな設置後、2週間以上イノシシが捕獲されなかった
- ▼ わなは稼働したが、連続して捕り逃がした
- ▼ イノシシやタヌキにわなが繰り返し掘り起こされた
- ▼ 明らかにイノシシに回避されたような痕跡を確認した
- ▼ イノシシやシカを捕獲した（設置環境がひどく荒れた）

4. 止めさし（殺処分）

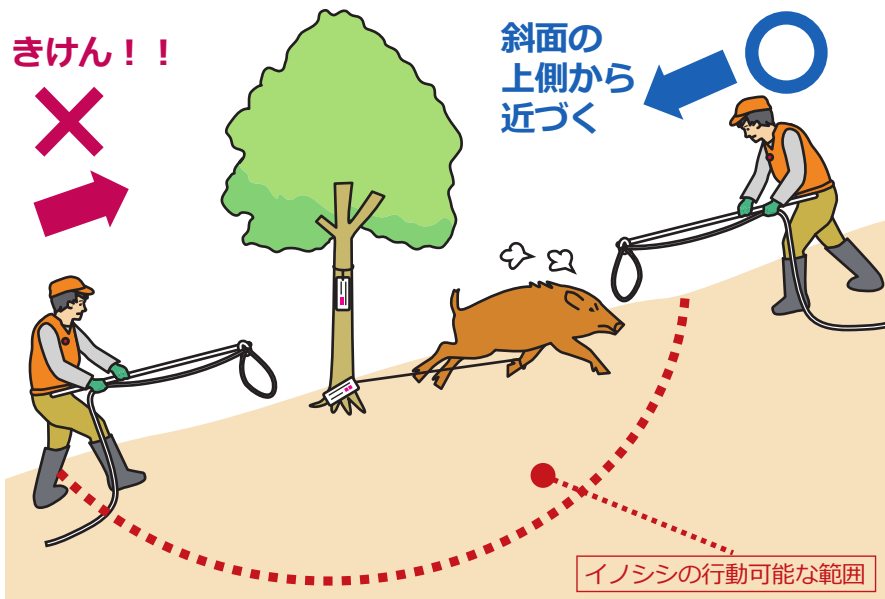


目標 ● 安全に作業を行うこと

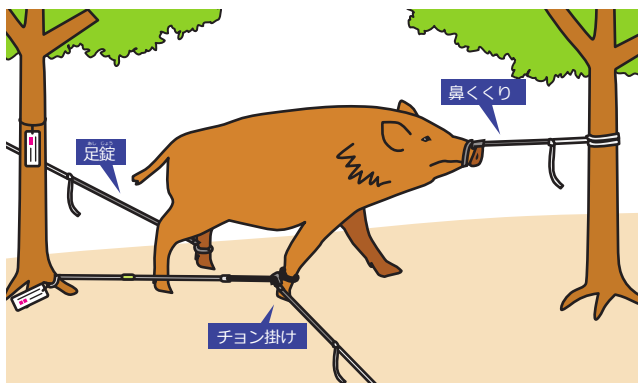
- ① 捕獲されたイノシシは、人に向かってくる性質があるため、不用意に近づかず、イノシシの興奮状態や、くくられている足の状態、ワイヤーのかかり具合、捕獲場所の環境などを確認し、最適な殺処分方法を選択する。

※ 銃器が使用できない状況では、必ずイノシシを保定してから止めさしを行います。

- ② 捕獲個体の保定や殺処分を行う際は、イノシシの行動可能な範囲を確かめて、必ず斜面の上側から近づく。



- ③ 保定具を用いてイノシシを保定する。



※ 具体的な保定具の使用方法は、「イノシシ保定技術プログラム」を参照

④ 作業者の安全を確保できたら止めさしを行う。

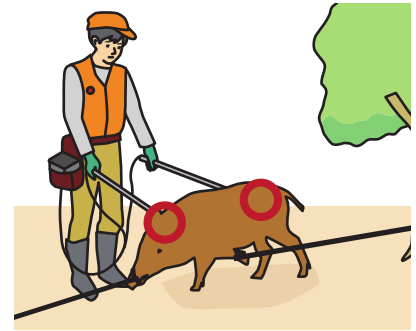
狩猟用刃物



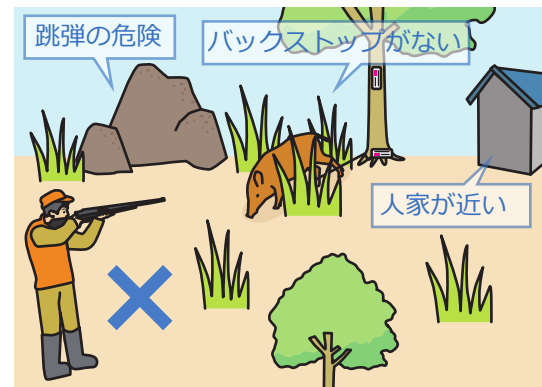
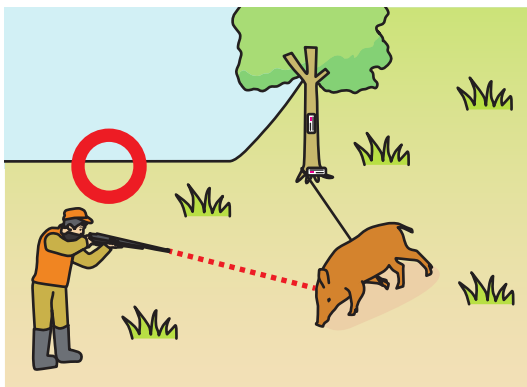
ハンマー



簡易電殺器



銃器



※ 止めさし方法の詳細は、「イノシシ^{ほてい}保定技術プログラム」を参照

5. 継続して捕獲又は移設

目標 ● 効率よく捕獲を続けること



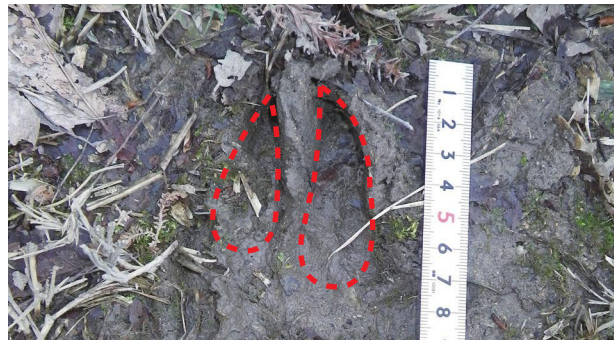
- ① 捕獲後の環境を見て、わなを埋め直すか、移設するか判断する。
※ わなを移設する際には、捕獲場所の環境を元通りに直しておきましょう。
- ② 事故防止のため、ワイヤー、締付防止金具、よりもどしなどの消耗品については、捕獲のたびに新しいものと交換する。

イノシシのフィールドサイン

足 跡



イノシシの足跡



シカの足跡

シカの足跡に比べ、全体に丸みがかかっているのが特徴です。副蹄の跡は深く踏み込んでいないと残りません。

糞



イノシシの糞（新鮮なもの）



イノシシの糞（古く乾燥したもの）



シカの糞

新鮮な糞は固まっていますが、時間がたつと乾燥して、シカの糞のようにバラバラに崩れます。

泥こすりの跡



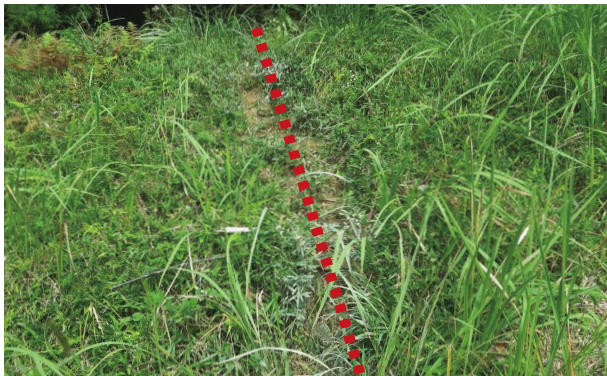
木の幹についた泥の跡



ヌタ場

イノシシは、ヌタ場で泥浴びをする習性があります。泥浴びの時に体にこすりつけた泥が、移動時や泥こすりの際に立木や下草に付きます。

けもの道



草地についたけもの道



林内についたけもの道

イノシシが歩くと下草に泥がつきます。



農業被害



掘り起し被害



水稲の食害

食べ痕



植物の根の掘り起し跡



ドングリの食べ痕

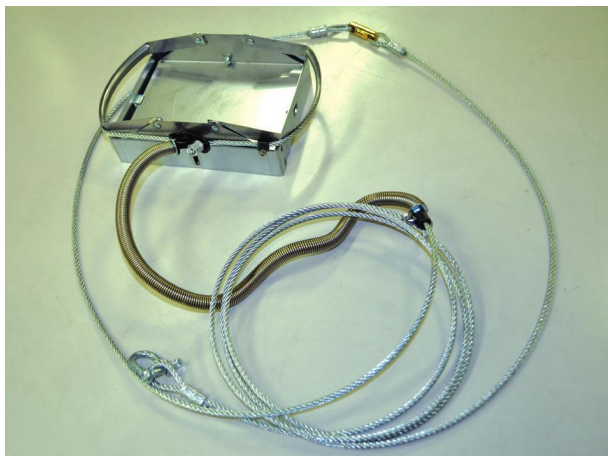


クリの食べ痕



タケノコの食べ痕

今回のプログラムで使用したくくりわな



踏み板式くくりわなのセット時の様子

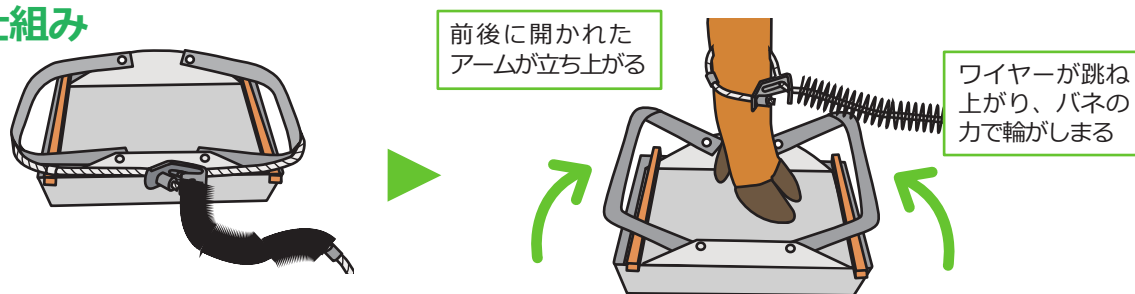


仕掛け

■ 仕掛けの部品一覧

部品名	規格	数量
ワイヤーロープ (油抜き、鉄線)	くくり用ワイヤー4mm径、6×24 (寄り合わせ本数6、ストランド素線数24)、長さ2m	1本
	根付け用ワイヤー4mm径、6×24 (寄り合わせ本数6、ストランド素線数24)、長さ1.5m	1本
押しバネ	外径12mm、全圧荷重15kg、全長1,300mm	1本
締付防止金具	ストッパー1個+ワイヤーロック1個	1式
よりもどし	真ちゅう製12mm	1個
蝶ネジ	2本タイプ	1個
アルミスリーブ	ダブル4mm用 3個 + ダブル半分4mm用 1個	1式

■ 仕組み



※ アームの下に割りばしなどを挟むことで感度を調整できます。

■ 踏み板式くくりわなの特徴

長所

- ・ 設置が簡単 (7~8cm程度の深さの穴を掘ることができれば埋設可能)。
- ・ 足をくくる位置が高い (捕り逃がしが少ない)。
- ・ タヌキなどの小・中型動物の錯誤捕獲が少ない。

短所

- ・ 本体が露出しやすい。
- ・ 長期間設置したままにすると、覆いの土が固まり、正常にわなが作動しなくなることがある。

- 監修・写真提供
阿部 豪（株式会社 野生鳥獣対策連携センター）

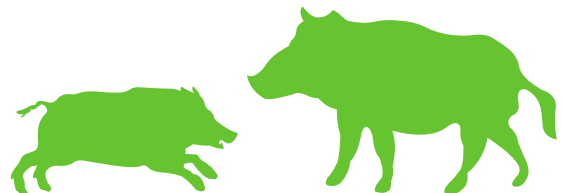
- 調査（プログラムの現地検証）・協力
一般社団法人 香川県猟友会

- 協力
高松市農林水産課
土庄町農林水産課
琴平町農政土木課

イノシシ捕獲技術プログラム Ver.2

平成 29 年 3 月 初版

- 編集・発行／香川県環境森林部みどり保全課
- 制作／株式会社 野生鳥獣対策連携センター
兵庫県丹波市青垣町佐治 8-2
- イラスト／米澤 里美





この印刷物は、環境を守るために、きちんと管理された森林から作る原料を使った紙【FSC認証用紙】と、有害な物質が出ず、紙のリサイクルがしやすいインキ【植物油インキ】、廃液の出ない、地球にやさしい【水なし印刷】で印刷しています。

